

六、時代を映す名大祭④——一九九〇年代

◆第三一回〜第四〇回のテーマ

名大祭一覽（4）には、一九九〇年代における名大祭のテーマなどを示しました。

この時期は、一九九七（平成九）年の第三八回名大祭を除くと、一九八〇年代のそれとほぼ同様にサブテーマを設けることなく比較的短いメインテーマが続いています。

◆「お祭り企画」の増加

この時期の名大祭の動向を象徴的に示していると思われることの一つとして、「お祭り企画」という項目がパンフレットに登場するとともに、その企画数が増加傾向にあることを指摘できます。この項目は、第三一回名大祭パンフレットで新たに設けられて以降、第三六回パンフレットまで連続して設けられています。この「お祭り企画」という用語から、前章で紹介した飯島学長のあいさつ文を連想した読者も少なくないと思います。当然のことながら、右に述べた各パンフレットでは、「お祭り企画」のほかに、「学術企画」「学部祭」「有志企画」など

名大祭一覧 (4)

回	開催年	開催日	メインテーマ/サブテーマ	名大祭の動き
31	1990年	6/6～10	文明の育ての親と生みの親である。	テーマ企画この回のみ復活。フオーグダンス企画消える。「お祭り企画」のカテゴリー登場。「徹夜スケート祭典」が「All Night Skating」に。歌声祭典、子供大会なくなる。合同合唱祭はじまる。
32	1991年	6/5～9	未来への足跡	
33	1992年	6/10～14	腐った鯛、原石のダイヤ	フリーマーケットが本部実行委企画としてパソソフに掲載される。豊講前特設ステージでアラチュエアバンドコンサートとグリーンソフエステイバルが開催される。
34	1993年	6/9～13	卵からかえる瞬間	模擬店112店。
35	1994年	6/8～12	種まいて、水かけて、	オーブニソグゼレモニーがはじまる。豊講前特設ステージ再登場。名大祭教養部実行委員会が名大祭一・二年生実行委員会となる。
36	1995年	6/7～11	夢見る頃を過ぎて…今こそ動き出すとき	
37	1996年	6/5～9	カニ	「お祭り企画」カテゴリーなくなり、ジャンル別分類に。
38	1997年	6/11～15	くさった学生。くさった教授。／真の大学改革を目指して	テーマをめぐって実行委と大学側が折衝。サテナーブを「21世紀への挑戦状」から変更。「テーマ企画」がこの年限定で復活。
39	1998年	6/10～14	崖っぷち	模擬店133店。
40	1999年	6/9～13	0からの創造	名大祭本部実行委員会が「名大祭ごみ非常事態宣言」。

(各年の名大祭パソソフレットより作成)



第31回名大祭 仮装行列（『'94名古屋大学卒業記念アルバム』より）

の項目があります。この「お祭り企画」という表記には、一体どのような意味が込められているのでしょうか。

この点に関しては、名大祭関連の学内資料をみると、一九八〇年代後半ごろから名大祭に参加する学生数（とりわけ学部学生）が減少する傾向にあり、まさに一九九〇年代前半ごろは本部実行委員会側が〈学生層を引き戻す、魅力ある名大祭づくり〉を懸命に模索していたことがわかります。「お祭り企画」による魅力の強化ということの是非はともかく、名大生の多くが参加しない名大祭に対する一種の危機意識が読み取れるのではないのでしょうか。

◆第三八回名大祭テーマ

ここで、この時期の名大祭では異色な第三八回（一九九七年）のテーマについて、簡単に説明をしておきます。

「くさった学生。くさった教授。」というメインテーマは、その大胆さが議論を巻き起こし、新聞にも取り上げられました。このメインテーマには、当初「二一世紀への挑戦状」というサブテーマがつけられていましたが、最終的には「真の大学改革を目指して」という表現に改められています。

なお、この第三八回のテーマは、翌年のテーマ「崖^{がけ}つぷち」にも影響を与えていることが次の文章からもわかります（『第三九回名大祭パンフレット』テーマアピール）。

前回、……(略)……大学における学生教授双方の無気力さに対して一つの警告がなされました。しかし、……(略)……改善に向けての行動を起こした学生は教授はいつたいいかにかりたでしょう。問題意識を失った大学はもはや「崖^{がけ}つぷち」状態にあるといえます。しかし、このあと一步の「崖^{がけ}つぷち」状態で踏み留まり、この状態を脱しなければなりません。そのために何が重要なのか。今こそ学生教授一人一人自覚し、さらなる飛躍を目指そう。

